



職員研修会

8月3日(木)、発達障害のある児童生徒の理解を深め指導に生かすため、職員研修会を開催しました。講師の大沢先生からはスペース・イオで勤務されていたご経験から、さまざまなエピソードや支援のポイントを教えていただきました。日々悩みながら児童生徒と関わっている私たちに、温かく力強い応援メッセージとなりました。内容の一部を紹介します。

講演 『自閉症スペクトラムの子どもたちの困難さの理解と先生たちに期待すること』

講師：特別支援教育アドバイザー 大沢 貴子 先生

＜スペース・イオで学んだこと＞

- ・学習支援は大事
- ・UNOゲームがお勧め。人との関わりが苦手な人でも参加できて、ルールや勝ち負けを十分に経験できる。
- ・教師も一緒に活動。やらせるだけではだめ。
- ・体育が苦手な子どもに楽しくなるルールの工夫で対応する。
- ・関係性ができたら「だめなことはだめ」など必要なことは教える。
- ・集団活動が苦手な子は多いが、挨拶やルールを守るなど必要なことは指導する。
- ・発達障害の特徴をもっている不登校の生徒の共通点として、今(現在)のことしか見えないことが妨げとなる(想像力が乏しい、経験したこと以外は実感できない)。だからこそ経験させる工夫をし、乗り越えた実感をもたせていく。
- ・大人が決して諦めない。愛情と根気強さ。

「軌跡」が「奇跡」を生む



病気の子ども、クラスにいませんか？ 病弱教育サポートセンターきらり☆の紹介

入院中や自宅療養中の子どもを支えるための具体的な内容を、関係機関とともに検討し支援します。

- ◇学習の遅れや学校生活の不安に対する対処方法の提案
- ◇学習方法の検討や在籍校が準備した自主学習用の課題プリントへの支援
- ◇復学までの準備や学習の内容・方法の提案
- ◇心理的安定に向けた支援

病弱教育サポートセンターきらり☆(秋田きらり支援学校内)とせんぼく校が連携して支援いたします。お気軽に相談ください。



ICTを活用した教材

今年度、せんぼく校では国語の授業づくりに重点を置き、ロイロノートのアプリを活用した教材を効果的に授業に取り入れています。

小学部2年生の学習から

タブレットでひらがなカードを並べて単語を完成させたり、なぞって書いたり、読みを録音して友達と聞き合ったりなど、ロイロノートで作成した教材を使って学習しています。また、自宅に持ち帰り、タブレットで宿題を行っている児童もいます。1時間の授業に集中して取り組めるようになり、読み書きできる文字が増えています。

日々の授業実践から

今回は、先日行われた大曲支援学校小学部1・2年生(6名)の国語科の授業実践について紹介します。

教材名 『さんびきのこぶた』

本時の目標：木の家を作ることが分かり、「軽い」「堅い」などの言葉を使ったり、感想を擬音語にしたりして木の特徴を表す。

物語の内容は、児童にとって分かりやすく、これまでに何度か見聞きしたことがあるため、児童は主体的に学習に取り組んでいました。「軽い」「堅い」の単語カードを提示するときに、反意語である「重い」や「やわらかい」の単語カードも提示して、更にカードに重さを付けたり、素材を変えて違う堅さにしたりして比較できるように教材を工夫していました。

ICT機器だけでなく、実物の藁と檜の木材、レンガを提示したことで、見る(視覚)だけでなく、触れる(触覚)など体験的な場面を設定することで、「木はつつるで、レンガはカチカチ」「レンガは重い、木は重くない」などの発言が聞かれました。また、嗅ぐ(嗅覚)ことで、「藁はくさいけど、木はくさくない」など様々な感覚を使って気付いたことを自分の言葉で表現していました。

児童から出された「重くない」は「軽い」、「カチカチ」は「堅い」という言葉でも表現できることをその場で一緒に考えたり、振り返りの場面で再確認したりして、児童の言語活動を充実させるための工夫が見られた授業でした。



秋田県立大曲支援学校せんぼく校

〒014-0372 仙北市角館町小館77番地2

TEL 0187-42-8568

FAX 0187-42-8569

メールアドレス senboku-s@akita-pref.ed.jp

副校長：清水 潤

教育専門監：大川 康博(大曲支援学校)

地域支援部：佐々木 奈織